

# 「新かながわグランドデザイン実施計画」の 進行管理（案）概要

令和 6 年10月 政策局

# 本日も審議いただきたい事項

## ○進行管理（案）について（P5、資料2 参照）

- ・全体構成及び各項目（基本的な考え方、「実施計画」の評価）
- ・総合的な政策評価への対応、一次評価、二次評価の考え方
- ・評価区分のイメージ

## ○様式イメージについて（P6、資料3 参照）

- ・全体構成及び各項目の内容等

# 計画の推進に当たっての留意事項

## 総合計画審議会答申（R6.3.26）抜粋

### 2. 計画の推進に当たっての留意事項

#### （2）計画の適切な進行管理

- 計画を着実に推進し、進行管理を行っていくため、プロジェクトに掲げた指標の動向やKPIの達成状況だけでなく、関連する事業の取組状況や様々な統計データなどを活用し、総合的に政策を評価していくことが必要です。
- プロジェクトのねらいと施策との関係性を明確にしたロジックモデルは、計画の構成を分かりやすく示したものであるとともに、効果的な進行管理に資するものであり、県の組織内でこれらのロジックモデルについて浸透を図り、政策の運営・評価に十分に活用していくことが重要です。
- 政策を検証し、新たな課題を発見することは、計画を次のステージに進めるためにも大切なことであり、しっかりと政策評価を行い、その結果を生かして政策改善につなげていくことを求めます。
- また、コロナ禍の経験を踏まえ、計画策定時に想定し得なかった事態が生じた場合は、「政策のマネジメント・サイクル」にとらわれず、状況に応じた政策評価や柔軟な政策展開を図ることや、評価作業そのものの「費用対効果」にも留意していく必要があります。

# 前回部会（R6.7.10）での主な意見とその対応①

評価手法（進行管理の考え方、様式イメージ）や県民への伝え方などについて、様々なご意見をいただいた。

<主な意見とその対応>

## ○具体的な評価の方法、評価の流れ

- ・【意見】評価は、現状確認と見直しが目的ということをしかりと確認し、遅れているのであれば、その理由を確認して改善する、そのための評価だと伝わるようにすべきではないか。  
⇒【対応】総合的な評価の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映①
- ・【意見】KPIの達成状況について、4段階の原則的な考え方の共通の物差しを示すべきではないか。  
⇒【対応】4段階評価の考え方を整理し、進行管理（案）に反映②
- ・【意見】社会環境の変化等も含めた分析というのが非常に重要。
- ・【意見】社会環境の変化など、もう少し質的なものを書く部分があった方がいいのではないか。  
⇒【対応】総合分析の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映③
- ・【意見】アウトカムが段階的に現れていくことを踏まえながら評価を進めていくことが有用ではないか。  
⇒【対応】経年変化の把握の考え方を整理し、進行管理（案）、様式イメージに反映④

# 前回部会（R6.7.10）での主な意見とその対応②

## <主な意見とその対応>

### ○『関連する統計データ』に用いる統計データ

- ・【意見】関連する統計データについて、どう選び、どう考慮するかということを考える必要がある。  
⇒【対応】関連する統計データの考え方を整理し、進行管理（案）に反映⑤

### ○県民への伝え方

- ・【意見】県民に意見を求めていく時に、馴染みのない言葉であるロジックモデルやKPIという専門用語に対する解説を検討してはどうか。  
⇒【対応】専門用語の解説の記載について、進行管理（案）に反映⑥
- ・【意見】評価報告書を様々な人たちに見てもらうために、様々なパターンを作るべきではないか。  
⇒【対応】評価報告書の概要版の作成など、評価結果の公表の考え方を整理し、進行管理（案）に反映⑦

### ○県民意見

- ・【意見】県がやっていることに対して、意見を聞く場を設けるなど、県民寄りに考えてもいいのではないか。  
⇒【対応】県民意見の考え方を整理し、進行管理（案）に反映⑧

# 進行管理（案）の構成

これまで（かながわランドデザイン）の評価手法を参考にしながら、総合計画審議会答申や部会からのご意見を踏まえ、より効果的・効率的な手法を取り入れた形で、計画の進行管理を行っていくこととする。

## ○進行管理（案）の構成

はじめに

### 1 基本的な考え方

(1) 総合的な政策評価

(2) ロジックモデルの評価への活用

(3) 効果的・効率的な政策運営

(4) 状況に応じた政策評価等

### 2 「実施計画」の評価

(1) 評価の実施時期について

(2) 評価の対象について

(3) 評価の実施主体について

(4) 評価の内容について（反映①②③④⑤）

(5) 評価結果の公表について（反映⑥⑦）

(6) 県民の意見について（反映⑧）

(7) 想定し得なかった事態が生じた場合の  
評価について

### 【参考】評価手法のまとめ

(1) 具体的な評価の方法等

(2) 評価の流れ

# 様式イメージの構成

## ○プロジェクトのポイント

## ○ロジックモデル

## ○最終評価（総合計画審議会による二次評価）

- ・ 4段階評価（順調に進んでいます・概ね順調に進んでいます・やや遅れています・遅れています）
- ・ 総合計画審議会（部会）の評価コメント（評価のポイント、今後留意すべき課題等）

## ○県による一次評価

### ・総合的な評価

- － 4段階評価（順調に進んでいます・概ね順調に進んでいます・やや遅れています・遅れています）

### ・総合分析

- － 分析コメント（構成施策の取組状況とその分析（社会環境の変化を含む）、現状の課題、今後の取組方針）
- － KPIの平均達成率
- － 指標の動向

反映①③

反映④

### ・構成施策の取組状況

- － 分析
  - － KPIの達成状況
  - － 関連する統計データ
  - － 主な事業の取組状況
- ・プロジェクトに関する取組などの情報

反映④

反映④

# 総合的な評価について

## ○総合的な評価

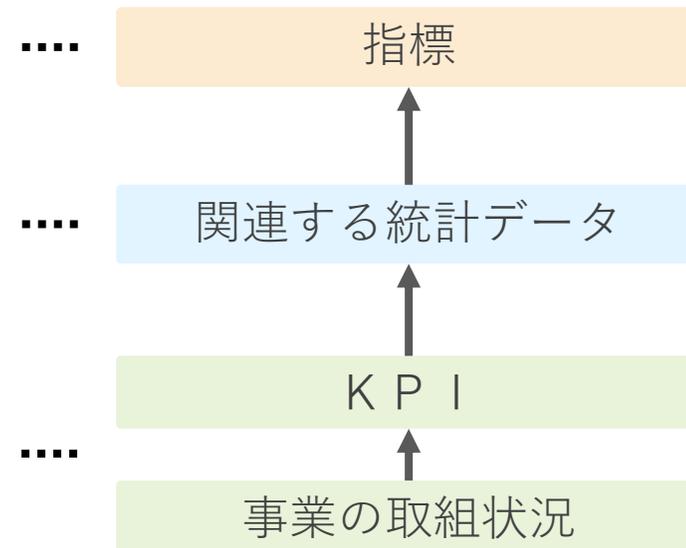
- ・ 毎年度の目標値を設定している「K P I」の達成状況に加え、「事業の取組状況」、「関連する統計データ」、「指標」の動向や「社会環境の変化」などを踏まえ、総合的に分析を行い、プロジェクトの進捗状況を4段階で評価する。
- ・ 分析に当たっては、プロジェクト推進上の課題や政策運営の改善を含めた今後の方向性を整理する。

# 評価に当たってのロジックモデルの活用

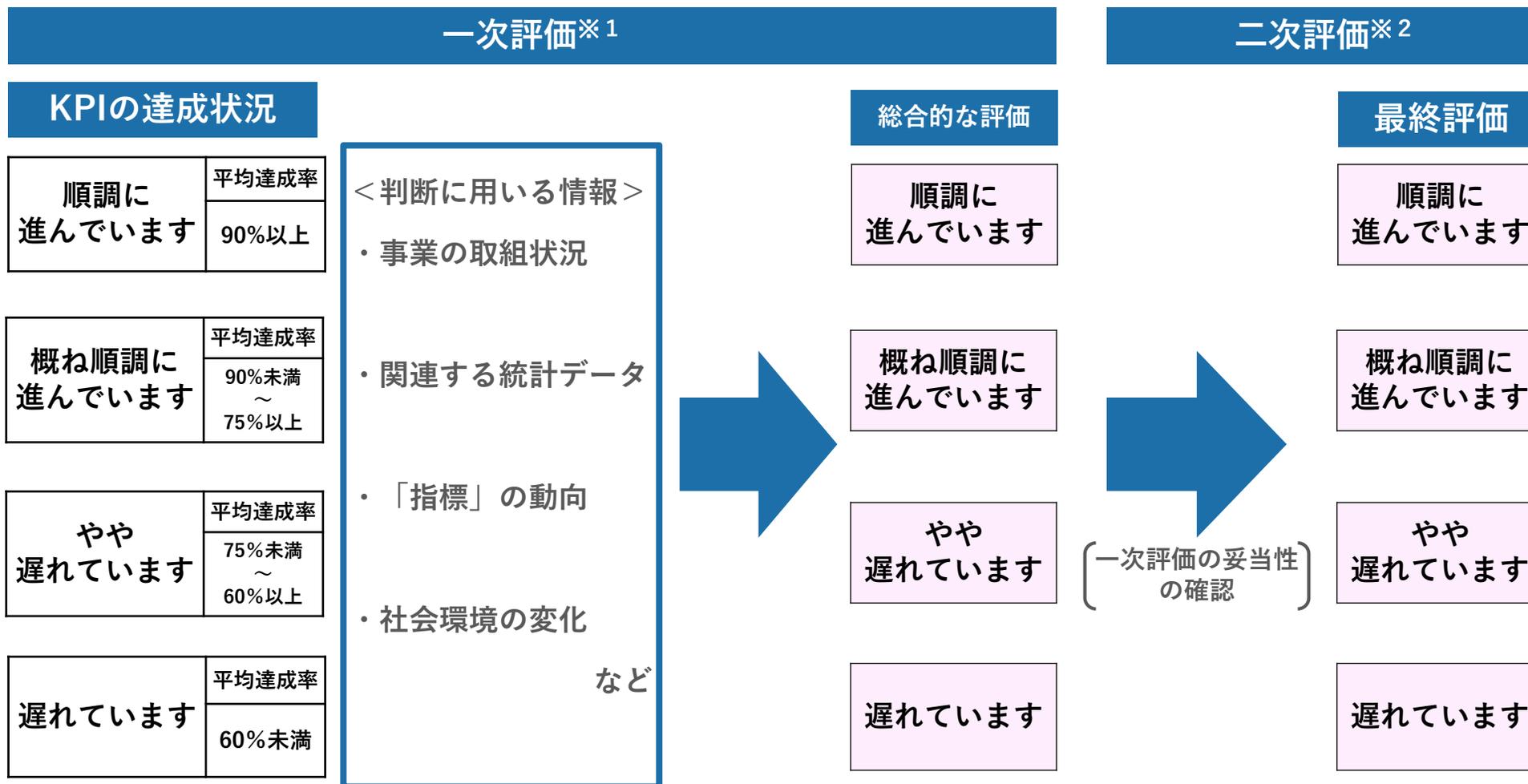
ロジックモデルを意識し、関連する統計データの選定などを行う。

- ・計画を着実に推進し、進行管理を行っていくため、プロジェクトに掲げた指標の動向やKPIの達成状況だけでなく、関連する事業の取組状況や様々な統計データなどを活用し、総合的に政策を評価していくことが必要です。
- ・プロジェクトのねらいと施策との関係性を明確にしたロジックモデルは、計画の構成を分かりやすく示したものであるとともに、効果的な進行管理に資するものであり、県の組織内でこれらのロジックモデルについて浸透を図り、政策の運営・評価に十分に活用していくことが重要です。【(R6.3)神奈川県総合計画審議会答申(抜粋)】

## ロジックモデル



# 評価区分（４段階評価）のイメージ



※<sup>1</sup> 県による一次評価は、KPI達成状況をもとに、事業の取組状況、関連する統計データ等を考慮して評価を行います。

※<sup>2</sup> 総合計画審議会による二次評価は、県の一次評価の妥当性の確認を含めた評価を行います。

# (参考) 評価の流れ (令和7年度想定スケジュール)

1 県の事業部局による一次評価の実施 (令和7年2月中旬～4月中旬)



2 計画推進評価部会グループ会議において分野ごとに二次評価(案)を検討 (令和7年4月下旬)



3 計画推進評価部会において評価報告書(案)を審議 (令和7年5月中旬)



4 総合計画審議会において評価報告書を審議・決定 (令和7年6月上旬)



・議会報告 (令和7年6月下旬)

5 新かながわランドデザイン評価報告書2024の公表 (令和7年7月上旬)



・県民意見募集 (令和7年7月上旬～)

政策レビューの実施及び政策レビュー結果を踏まえた令和8年度の政策運営への反映